

有害プランクトン情報 (平成 30 年度 - No. 4)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えるので、毎月 1 回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

- 調査日 沖合 7 月 第 1 回 内湾 (8 地点) 7/2 内房 (7 地点) 7/2
7 月 第 2 回 内湾 (8 地点) 7/17 内房 (7 地点) 7/18
- 貝類漁場内 銚子 7/17 九十九里 7/9 千葉北部 7/11, 23 木更津北部 7/17
木更津南部 7/2, 9, 17, 24 富津 7/2, 23

【有害プランクトンの出現状況】

- 有害プランクトンの最大密度はシャットネラ属が 7/18 に大貫及び勝山沖で 0.05 細胞/mL、ヘテロシグマ属が 7/17 にアクア南で 17.00 細胞/mL、カレニア属が 7/17 に盤洲北及び 7/18 に大貫で 0.05 細胞/mL で、いずれも注意基準未満でした。シュードシャットネラ属は確認されませんでした。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下、pH8.5 以上、酸素飽和度 150 %以上) は第 1,2 回ともに内湾北部で確認され、優占種はスケルトネマ属でした。
※ シャットネラ属は 1 細胞/mL, ヘテロシグマ属は 1000 細胞/mL, カレニア属は 100 細胞/mL を超えた場合に注意報を発出します。

【貝毒プランクトンの出現状況】

- 麻痺性貝毒原因プランクトンは確認されませんでした。
- 下痢性貝毒原因プランクトンの最大密度はディノフィシス アキュミナータが 7/17 に盤洲北で 2.10 細胞/mL でした。なお同種は 5/22 に羽田沖で 19.35 細胞/mL まで増加しましたが、被害情報はありませんでした。他種はディノフィシス ロツンダータが 7/17 にアクア北で 0.70 細胞/mL、ディノフィシス カウダータが 7/18 に浦賀水道で 0.10 細胞/mL、ディノフィシス フォルティが貝類漁場の一部で 0.05 細胞/mL (検出限界程度) でした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

- 7/2 内湾 珪藻 シュードニッチア属、スケルトネマ属
内房 同上
- 7/17 内湾 珪藻 スケルトネマ属 (図 1)
- 7/18 内房 珪藻 キートセロス属 (図 2)、レプトキリンドルス属



図 1 スケルトネマ属
(7/17 アクア南)

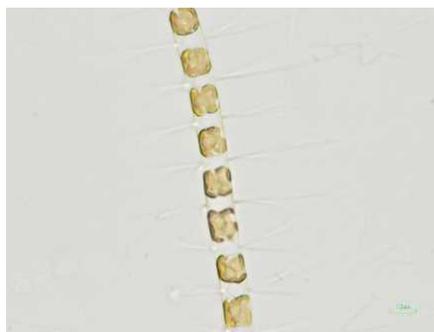
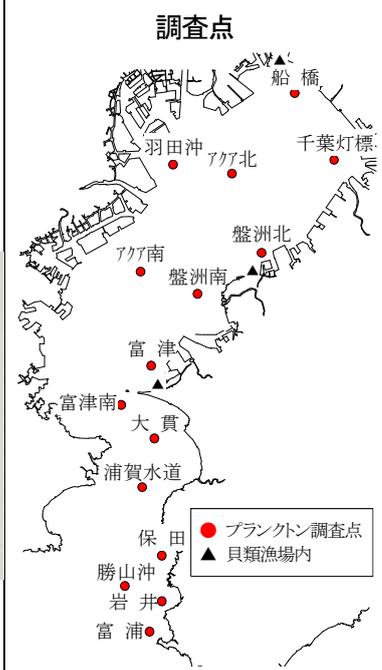


図 2 キートセロス属
(7/18 大貫)



連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所

〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp